

兵庫県支部だより

平林俊明

2017年4月から兵庫県透析医会会長を拝命しております平林俊明です。

当会は1983年に設立され、2018年12月時点で会員施設数185、会員数270です。兵庫県下のほぼ全施設が入会しています。

兵庫県は人口が約548万人で、日本透析医学会統計調査による透析患者数は2017年末で14,036です。地理的には北は日本海に面し、中央には瀬戸内海があり、南は淡路島が太平洋に面しています。その中には都市部もあれば、郡部もあります。そして、都市部では人口が増加していますが、郡部ではわずかながら減少しつつあります。大雑把ですが、日本の縮図とともらえる事ができます。

もちろん、最近では日本透析医学会総会が神戸市で頻繁に開催されていますので、皆様もよく御存知のことかもしれません。

県内には神戸大学医学部附属病院腎臓内科と兵庫医科大学病院腎・透析内科があり、両大学共に透析医療の研究にほぼ50年間携わっておられ、いつも大変お世話になっております。

さて、当医会には委員会組織が設けられています。2018年5月発行の兵庫県透析医会誌の委員会報告を抜粋・加筆してご説明致します。

(1) 移植推進委員会（委員長：野島道生，兵庫医科大学病院泌尿器科教授）

2017年の腎移植件数は増加しており、神戸大学37例、県立西宮病院25例、兵庫医科大学病院18例、神戸中央市民病院1例の合計81例でした。その内訳は生体腎移植・献腎移植がそれぞれ80%・20%ですが、献腎移植が16例と少ないながらも増加しています。

活動としては以前から一般市民・腎臓病患者・医療スタッフに対する啓蒙活動として市民公開講座「腎移植という選択」を定期的に開催しております。2018年5月には西宮市で、11月には神戸市で開催致しました。9月30日に淡路島の洲本市で開催予定だったのですが、台風が直撃したため残念ながら中止になりました。これまでの市民公開講座を聞いて生体腎移植を受けた患者さん・献腎移植の登録をした患者さんが毎年増加しています。来年は淡路島での開催を予定しておりますし、県北部地域での開催も目指しております。

(2) 災害対策委員会（委員長：赤塚東司雄，赤塚クリニック）

以前から災害時医療支援船事業を行っておりますが、2013年からは兵庫県立香住高校の但州丸

を使った災害時医療支援船活動が始まり、2014年から毎年のように検証航海を実施しております。参加者数も着実に増加し、職域の多様化が進み、担当領域が大きくなってきております。阪神淡路大震災を経験した医師・臨床工学技士・看護師のみならず、船領域の指導的立場にある神戸大学海事科学部、患者団体の兵庫県腎友会・難病連も参加していただきまして、支援されるもの・支援を作るもの・実行するもの、すべてが参加した形で災害対策を進めております。

また、医会内の連絡方法として医師会員のみのメーリングリストを以前から運用していますが、災害発生時には医師が多忙になり発信困難に陥りがちですので、医療スタッフも参加できる災害発生時のメーリングリストを立ち上げています。ただし、施設管理者の変更等もあり数年に一度はメンテナンスが必要です。

(3) 危機管理委員会（委員長：和田義孝，昭生病院）

感染対策や事故を取り扱っています。いわゆる新型インフルエンザ発生が神戸発でしたが、その際は基幹病院の医師からの情報がメーリングリストを通じて速やかに多くの会員医師の間で共有され、非常に有用だった記憶がございます。その後は、エイズ予防財団の助成を受けて「HIV感染症とCKD」という演題で兵庫医科大学病院血液内科講師の日笠聡先生にご講演いただいています。

(4) 学術統計委員会（委員長：河野圭志，神戸大学医学部附属病院腎臓内科）

鉄含有リン吸着剤やエテルカルセチド等の登場によるCKD-MBD診療の変化と2015年日本透析医学会「慢性腎臓病患者における腎性貧血治療のガイドライン」改定に伴う貧血・鉄診療の変化を踏まえて、透析患者における鉄診療とCKD-MBD診療についてアンケート調査を2017年度に実施し、2018年4月にその結果報告に加えて県立西宮病院腎臓内科医長藤井直彦先生に「透析患者におけるCKD-MBDと鉄代謝」というご講演を、神戸大学腎臓内科教授西慎一先生には「腎性貧血に対する鉄補充」についてのご講演をしていただきました。

2018年度はフットケアに関するアンケート調査を主としてフットケアを実際に担当している医療スタッフを対象として実施中です。

今後もテーマを変えながらアンケート調査を実施し、それに関わる内容の講演会を開催していく予定にしております。

(5) 高齢化対策委員会（委員長：岩崎徹，岩崎内科クリニック）

透析患者の高齢化が進み、高齢者医療対策を避けて通れないものになってきております。

そこで、①透析患者の介護保険利用、②通院介助の問題、③サ高住利用、④特定除外制度廃止に伴う透析患者の難民化問題等について検討して参りましたが、2018年4月の医療・介護同時改定があり、その後の現状についての講演会を年1回開催していく予定です。

(6) 医療経営委員会（委員長：濱田信一，はまだクリニック）

2017年は「透析医療機関の労務トラブルの事例」という演題を社会保険労務士に依頼致しました。

2018年は製鉄記念広畑病院内科部長横澤貴史先生に「アンガーマネジメント入門セミナー/透析施設管理者のために」という講演をしていただきました。

以上の6委員会には一人の委員長と複数の会員にメンバーになっていただき、それぞれ活動していただいています。

さて、兵庫県透析医会総会を6月と12月に開催していますが、総会後に講演会を毎回開催しております。6月は医師以外の看護師・臨床工学技士・栄養士・薬剤師等のスタッフのためにも有用なテーマを取り上げています。

2017年6月は透析室での下肢重症虚血（CLI）への対応を、神戸中央市民病院看護師仲村直子様、兵庫医科大学病院冠疾患内科三木幸次郎先生、北礪磨総合医療センター形成外科・重症虚血肢センター藤井美樹先生からそれぞれ御講演頂いています。

2018年6月は透析患者の骨を考えるとのテーマで島根医科大学臨床検査医学講座准教授矢野彰三先生と和歌山県立医科大学腎臓内科教授重松隆先生にご講演いただきました。

一方、12月は医師のみを対象にしており、2017年は「糖尿病の透析を再考する」との演題で神戸大学大学院腎臓内科吉川美喜子先生に、「認知症と地域包括ケアシステムについて」を兵庫県加東健康福祉事務所長柿木達也先生にご講演いただきました。

2018年12月は発足25周年から5年毎に開催している所の35周年パーティーを開き医療スタッフと共に元読売テレビ報道局解説委員長の辛坊治郎様の講演を拝聴しました。

各種講演会以外の活動としては、各透析施設で発生する種々の合併症に対処するために、どこの医療機関に紹介したらよいのか等で、会員が悩む事が無いように地域別・疾患別に受け入れ可能な医療機関の一覧表を作成し、透析医会誌に掲載しております。これも常に見直しが必要ですが、追加・変更等があれば医会事務局に連絡していただくように関係医療機関にお願いしております。

また、保険担当の幹事を任命し、診療報酬請求に関する疑問等の窓口になっていただき、担当幹事には一括して国保連合会や社会保険支払基金との間で調整役をしていただいています。

兵庫県腎友会担当幹事も任命して、患者さん達との連絡をしてもらい、年に一度は腎友会会長をはじめ役員の方々との懇談会を開催し、互いの理解を深めております。

以上、兵庫県透析医会での活動内容を順に説明させていただきました。兵庫県透析医会のホームページにも掲載しておりますので参考になりましたら幸いです。